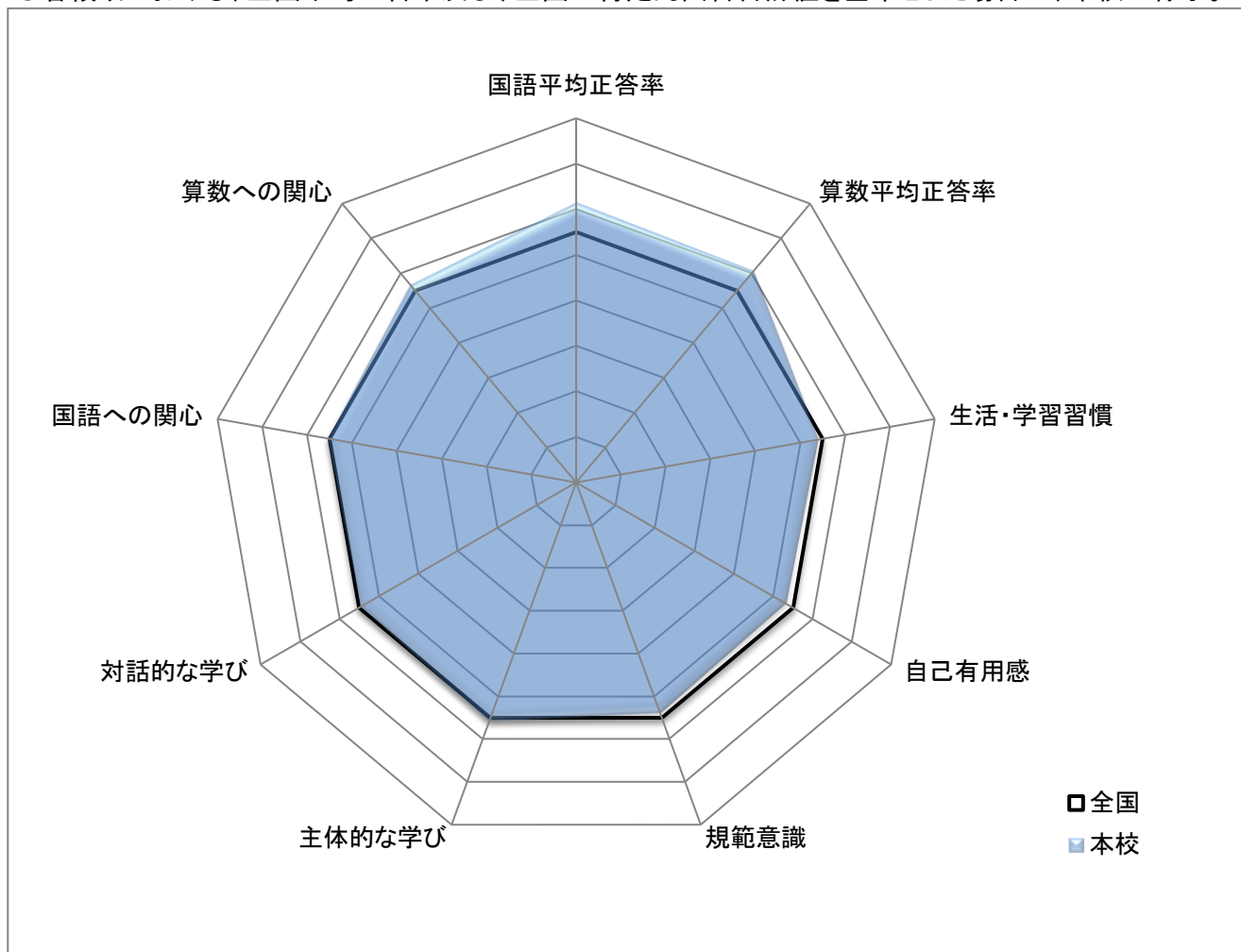


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

全国平均を上回った項目は、「国語平均正答率」13%「算数平均正答率」11%上回った。その他にも「主体的な学び」「国語への関心」「算数への関心」が上回っている。下回った項目は「生活・学習習慣」「自己有用感」「規範意識」「対話的な学び」である。最も低かった「自己有用感」の中でも、「自分にはよいところはありませんか」という回答が6.9%下回っていた。

《授業改善のポイント》

- ・「対話的な学び」を意識した授業づくりを行う。
- ・文章を読み、わかったことをまとめて書くことの正答率が低かった。そのため、文章の要旨を捉えて要約する学習を授業の中に積極的に取り入れていく。
- ・漢字に課題がある。細かに漢字テストを行いながら、家庭学習では、新出漢字を使った例文を作るようにさせる。
- ・算数では正答を求めるだけでなく、既習の学習事項をつかって答えを導き出す過程の楽しさを感じられる授業作りをしていく。また、自分の考えだけでなく友達がどんな考えでその答えを出したのか聞き、自分の考えにも生かしていくようにさせる。

《チャートの特徴》

全国平均の形に近く、概ねきれいな九角形の形をしている。国語、算数共に正答率が高い。国語と算数だと算数への関心意欲が高い。「国語平均正答率」「算数平均正答率」「主体的な学び」「国語への関心」「算数への関心」の学習面の項目が上回っている。下回った項目は「生活・学習習慣」「自己有用感」「規範意識」「対話的な学び」で全国平均に届かず凹んでいる。

《家庭・地域への働きかけ》

「生活・学習習慣」の寝る時間、「自己有用感」「規範意識」は、全国平均を下回っている。学校・家庭・地域の中で学習面や生活面など、子供たちの様々な良さをそれぞれの立場で認めながら、ルールを守ることの大切さを指導していくよう協力を求めていく。